

3. 2021年度事業計画詳細

(1) 大工道具及び建築関連資料の収集及び保管

- ① 大工道具など実物資料の収集
 - a) 実物資料の収集
日本国内および海外の実物資料を収集し、展示事業ならびに研究活動に活用する。
- ② 視聴覚資料の収集と保管
 - a) ビデオライブラリーの拡充
本年度は予算逼迫により映像作品を製作しないこととした。
- ③ 分類整理・保管
 - a) 収蔵庫の整備
収蔵庫維持管理に伴う各種業務を実施する。害虫燻蒸、温湿度管理、資料の油拭き等の定常管理の他に、本年度は収蔵庫別館建替、収蔵場所再構成にともなう棚・箱や設備機器等の購入を行う。
 - b) 資料データベースの整備
資料の保全ならびに管理作業の効率化を目的に、大工道具・図書・文献・映像・論文等の資料のデジタル化・データベース化を継続的に推進している。本年度は通常の新規収集資料の登録、写真撮影、画像補正・挿入等の作業のほかに、データベースソフト更新の検討を実施する。

(2) 大工道具及び建築関連資料等の展示及び公開

- ① 常設展示
 - a) 常設展示の保守管理
常設展示における器具破損対応等の保守管理、道具の油拭きならびに借用品の賃借契約更新を行う。
 - b) 関連印刷物の発行
来館者用のリーフレット、企画展、ワークショップ等のイベントチラシ、企画展図録の印刷発行と増版を含む適正在庫量を確保する。また、現行の子ども向けパンフレットを廃止し、ワークシートを新規作成する。
- ② 企画展の準備と実施
 - a) 巡回展「木組 分解してみました」(東京会場)
2020年5月に予定していた開館35周年記念巡回展が新型コロナウイルス対応の一環として下記日程に延期となった。情勢を鑑みながら、講演会やワークショップなど関連イベントを実施する。
会場：国立科学博物館企画展示室
会期：10月13日(水)～11月24日(水)
 - b) 「フィリップ・ワイズベッカーが見た日本」
日常の風景の中にある何気ないものを、独特な感性で描くフィリップ・ワイズベッカー氏。今回は彼が日本滞在中にみつけて描いた作品を展示する。また、パリにあるアトリエを自ら案内する映像も用意し、制作のノートをはじめ、日本から持ち帰ったお気に入りの道具などもアトリエから借用し紹介する。
会場：当館多目的ホール
会期：2月13日(土)～5月9日(日)

- c) 「唐招提寺金堂 建築展（仮）」東京・神戸展
 近年実施された修理工事から明らかになった木材、彩色、構造などの知見をもとに、古代の匠がどのように建築を捉え、千年も残る建築を築きあげていったのかを、古材や模型や映像などの建築資料を一堂に集めて紹介する。東京展は公益財団法人竹中育英会の主催で開催する。
 会場：東京 ギャラリー・エー・クワッド
 神戸 当館多目的ホール
 会期：東京 8月中旬～10月上旬（予定）
 神戸 10月中旬～12月上旬（予定）
- d) 「第18回伝統工芸木竹展関西展」
 日本伝統工芸展の木竹工部門で隔年開催される「伝統工芸木竹展」の関西展を、日本工芸会と共同して開催する。
 会場：当館多目的ホール
 会期：5月中旬～6月下旬（予定）
- e) ジャパン・ソサエティー ニューヨーク本部開館 50周年記念展「Shaping Forms: Carpentry Tools of Japan/<かたち>を創る：日本の大工道具」
 ジャパン・ソサエティー、ニューヨークは美術、文化、人物の交流を通じて日米を繋ぐ活動を活発に続けており、今回の特別展は日本の建造物を創り出すのに使われてきた伝統的な大工道具を紹介し、建築という<かたち>がどのように生み出されてきたのかに光を当てる。
 会場：ジャパン・ソサエティー ニューヨーク本部ビル
 会期：3月5日（金）～6月13日（日）
- f) 「一脚展 2021」
 兵庫県で活動する家具作家が過去一年以内に製作した新作の椅子を一脚ずつ展示する企画展を開催する。
 会場：当館多目的ホール
 会期：9月
- g) 企画展用備品の整備
 企画展開催に必要な備品（映像機器、サインスタンド等）を購入する。
- ③ 企画展の中期的準備
- a) 「大工道具名品展」
 館蔵の名工品を中心にした企画展を2022年に開催すべく準備・調整を進める。
- b) 海外特別展ヨーロッパ
 2022年6～10月にポーランド共和国クラクフ市マンガミュージアムで展覧会を開催すべく準備・調整を進める。

（3）大工道具及び建築関連資料等に関する調査研究及び研究誌の発行

- ① 建築技術と道具に関する研究
- a) 情報収集活動ならびに研究者ネットワークの形成
 道具と建築に関する情報収集を行う。現地調査、学会参加、博物館視察、出版物収集などを随時実施。また必要に応じて館外学識者との勉強会を適宜開催し、研究ネットワークの構築と館職員の知識向上を図る。

- b) 韓国
日本と深い関わりをもつ中国・韓国の木造建築と道具に関する調査研究を実施している。本年度は韓国の現役大工および鍛冶に関する基礎調査を現地にて行う。
- c) 中国保国寺共同研究
2019年に特別展「哲匠之手」を開催した中国寧波市の保国寺古建築博物館の依頼で、浙江省における古寺院における道具とその加工痕に関する共同調査研究を行う。本年度は保国寺にて基礎調査を行う。
- d) ヨーロッパ
ヨーロッパの大工道具と建築技術に関する継続的研究を引き続き行う。本年度は特にフランスの規矩術に関する調査を行う。
- e) 大工技術書
館蔵大工技術書の「黒田宗信伝来文書」についての読解研究を継続。3月に発行予定の研究紀要にて「上棟」部分の翻刻と解題を掲載予定。
- f) 建築部材の加工技術（部材加工痕）
近世までの部材加工技術の実態を明らかにすべく、建築部材の加工痕調査を継続する。今年度は、これまでの中世加工痕調査にて発見したものの工具不明とされてきた加工痕を明らかにすべく、銑（セン）等の使用実験を実施予定。
- g) 職人への聞き取り調査
名工と讃えられる大工ならびに鍛冶を対象に、既往研究調査ならびに本人・関係者への聞き取り調査を、中期的課題として継続的に実施する。
- h) 近世民家の住まい方
近世の民家における住まい方の歴史あるいは構法・加工技術の歴史について調査研究を進める。今年度は資料調査など各種準備を行う。

② 出版活動（研究成果の公開）

- a) 研究紀要 No. 32 の発行および No. 33 の準備
調査研究成果の公開を目的として、研究紀要 No. 32 を 3 月下旬に発行する。また並行してオンライン刊行を進め、印刷物の配布を極力減らす。本年後半には No. 33 発行に向けて企画ならびに原稿執筆を進める。

（４）教育、学術及び文化に関する普及及び支援活動

- ① 諸施設への協力
 - a) 諸施設への協力
各種学校、博物館、研究機関、職人団体等への情報提供および資料貸出、実習生の受け入れ、館外での受託講演、出張授業、研究協力などを行う。
- ② 教育・文化普及活動の実施
 - a) 「技と心」セミナーの開催
館職員および館外学識者を講師に、大工道具や建築技術に関するセミナーを年 2 回開催する。今年度から年 2 回開催とし、減少分は企画展連動イベントで代替することとする。

- b) ワークショップの開催
来館者に道具の使用を通して理解を深めてもらうため、「ちょこっと木工」(ワークショップ、水曜、土日祝日)、大工による鉋削り体験(月1回)、大工道具にチャレンジ(月1回)、春休み・夏休み子ども体験教室、木工作家によるワークショップなどを定期的実施する。
- c) 木工室の管理・運営
安全かつ円滑に木工室を管理運営するために必要な大工道具および工作機械等を整備する。

③ ボランティア活動の管理・運営

- a) 運営管理
大工道具に関心ある希望者をボランティアスタッフとして受け入れ、(1)館蔵品の手入れや整理等の補助、(2)常設展示の展示解説、(3)館内プログラムの運営およびその補助、(4)アウトリーチ活動での補助等に携わってもらっている。これら活動の管理運営ならびに、スキルアップのための研修会・見学会等を随時実施する。
- b) 茶道部運営管理
茶道ボランティアは当館の茶道部員として、茶室を利用して開催する茶道教室で先生から指導を受け、稽古に係る備品の補充管理や茶室の維持管理を行っている。また、教室で学んだことを特別茶室公開時の呈茶スタッフとして協力をお願いしている。

(5) 竹中大工道具館の管理・運営(管理業務)

① 管理・運営一般

- a) 財務会計処理業務一般
本館活動のための資金運用を含めた財務会計処理業務を適正且つ着実に実施する。
- b) 入館受付、団体受付、展示説明他
新型コロナウイルス関連の正確な情報収集を図り、感染拡大防止を最優先に考え、適切な施設管理、整備を進め、状況を見極めながら以下の運営を推進する。
団体の見学依頼の予約受付方法や、展示説明対応者の設定の改善を図りながら着実に
行なう。個人の来館者、外国人来館者に対しても解説ボランティアや音声ガイド活用
等により満足される対応を行う。また、家族来館や学校団体として来館の子どもたち
が楽しみながら学べるワークシートを作成する。人気の「ちょこっと木工」について
は受付業務をスムーズに行うために参加申込シートやメニュー表の改善を進める。

② 広報活動

- a) 広報一般
各種広報媒体へ企画展やイベント活動等を含めた情報提供を積極的に展開し、広報後の
礼状送付などアフターケアを含め継続して報道してもらえるよう努める。
博物館施設等のイベント案内に特化したSNSの利用、新規開拓に努める。
- b) 広報印刷物の発行と送付
当館の最新情報およびイベント案内を掲載した広報誌「竹中大工道具館 NEWS」(年2回
発行、作成部数6月:6,000部、12月:6,000部)と「イベントチラシ」(年2回発行、
作成部数6月:10,000部、12月:10,000部)を発行、また、サマーイベントやウィン
ターイベントの各チラシ(6月:20,000部、12月:10,000部)も発行し、関連施設、
来館者などに配布ならびに発送する。
また、関係名簿の見直しを図ることにより印刷物等発送費の削減に取り組む。

c) ウェブサイト・メールマガジンの維持・管理

広報活動の一環として、一般向けに IT を利用した、ウェブサイトの定期的更新および企画用特設サイトの構築、メールマガジンの定期発行（隔月年 4 回、広報誌 NEWS ベースに再編集）、SNS 投稿を実施する。また外国人対応のため、英語対応を充実させる。

③ ミュージアムショップの運営

来場者サービスの一環として「木」「道具」をコンセプトにミュージアムショップを運営している。購入者の嗜好を検討しながら、当館のイメージ向上につながる新商品の開発を生産者と連携しながら進めていく。

新型コロナウイルス感染防止対策として、ショップ入口に手指消毒液を設置し、利用者に対し、ショップ利用前に必ず手指消毒を行うことを呼びかける。また、閉店後や休憩時間にショップ内及びコインロッカー、受付カウンターのアルコール消毒を行い、利用者が安全にショップを利用できるよう努める。

④ 茶室の維持・管理

敷地内の茶室を適切に維持管理し、春・秋に特別公開を実施する。

⑤ 休憩室の維持・管理

定期的なイス、テーブル等什器の清掃・消毒に努めるとともに、手指の消毒できる体制を整備し休憩室を適切に維持管理する。制限の中で来館者が庭園を見ながらほっとひと息つける心地よい休憩場所を提供する。

⑥ 館の情報インフラの強化・管理

運営に必要な作業環境および情報インフラの更なる充実とセキュリティ強化を図るとともに、特に情報発信の手段としてメインとなるホームページの充実を図りユーザーの利便性を向上する。

⑦ 理事会・評議員会、役員見学会の開催

2～3 月に決算の定時理事会及び定時評議員会、11 月に次年度の事業計画・予算の定時理事会及び役員見学会(役員全員)を開催する。また、必要に応じて臨時理事会、臨時評議員会を開催する。但し、コロナウィルス感染拡大状況によっては、書面による決議も視野に入れ対応を判断する。

⑧ 財団法人事業報告会への参画

(公財) 竹中育英会、(公財) ギャラリーエークウッドと共に出席し、本館の事業の進捗などについて報告、及び運営上の情報交換さらには企画展の共同開催についても情報交換を行う。

⑨ 運営管理の改善と効率化

館の運営に係る管理費（固定経費）をより精度よく把握するとともに、事業費（変動費）の予実管理の充実を図ると共に効率よい運営を推進する。